

MESSAGES

メッセージ

東京証券取引所(東証アローズ)を会場に、「JAPAN CHALLENGER GATE」を開催し、多くの皆様にご参加いただき、大盛況のうちに無事終了することができました。ご来場いただいた皆様をはじめ、ご支援・ご協力を賜りましたすべての皆様に、心より厚く御礼申し上げます。

本イベントでは、「起業体験プログラムを通じて学ぶ、資本主義ダイナミズム」をテーマに、全国の高校生たちが参加する「スクールマネ部!起業体験(JPX起業体験プログラム)」などの成果発表が行われました。日本は資本主義国家でありながら、教育の現場ではその本質を学ぶ機会が限られています。だからこそ、文化祭のように主体的に取り組めるこの起業体験プログラムは、若者たちが社会や経済の仕組みを“体感”として学ぶ、極めて貴重な機会であると実感しています。

特に、生徒たちが実際に商品を販売する「実践販売」を経て、「株主総会」を開催するという一連のプロセスの中で、彼らは自然と経営を理解し、収支のバランスを考え、原価という概念を学んでいきます。机上の知識ではなく、実際にやってみるからこそ、知識や気づきを自然に、そして深く身につけていく——その姿を私たちは何度も目の当たりにしてきました。

講義や実践を通して、生徒たちの目に力が宿り、学びたいというスイッチが入る瞬間があります。株主の存在、地元商店からの協力、そして何より共に挑戦する仲間＝“社員”の存在。こうした要素をリアルに経験することで、生徒たちは「なぜ今、学ぶのか」「将来どんな仕事をしたいのか」といった自分自身への問いに、真剣に向き合い始めます。

「JAPAN CHALLENGER GATE」は、今後もさらに進化したプログラムとして継続開催を予定しております。未来を担う若者たちの挑戦の舞台として、より多くの学びと気づきの機会を提供してまいります。今後とも変わらぬご支援・ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



中川 直洋
公益社団法人ジャパンチャレンジャープロジェクト 代表理事
JAPAN CHALLENGER GATE プロデューサー

【JAPAN CHALLENGER GATE 2025】 ～起業体験プログラムを通して学ぶ資本主義ダイナミズム～

全国から選ばれた5校の高校生たちが、起業体験プログラムで学んだことを発表する場。しかも東京証券取引所というなかなか入れない場所での開催でした。実際に投資を受けてビジネスをした高校生たち。「途中で値段を上げたのが利益につながった」「笑顔がいかに大切に気づいた」といった実体験からの学びはとても尊いです。その発表に対して、日本を代表する投資のプロやスタートアップに関わる方々からのアドバイスは、あたたかく、心に残るものでした。パネルディスカッションでは、この起業体験プログラムを提案し、ふるさと納税の仕組みを考案された村口さん、地方の現状を踏まえて投資家としての目線の藤野さんを中心に、高校生たちに地方から世界を目指して起業ができるという確信の話で盛り上がりしました。

来賓として来場された前三重県知事で、衆議院議員の鈴木英敬さんのご挨拶は、スタートアップ支援の立場からの内容はもちろんですが、人前で話す時の理想のような話し方。明るい表情で、自然な身振り手振りがあって、司会の私やスタッフとの関係性を絡めながら高校生たちを応援する、会のスタートに士気を上げてくれるスピーチでした。チャレンジする高校生と、それを前向きにサポートするカッコいい大人たち。私もワクワクしながら司会をしました。



平野 裕加里
司会
ファシリテーター

JAPAN CHALLENGER GATE 2025



起業体験プログラムを通して学ぶ、 資本主義のダイナミズム!

主催 公益社団法人ジャパンチャレンジャープロジェクト	チーフディレクター 勝見 成久 (公益社団法人ジャパンチャレンジャープロジェクト)	スペシャル・サンクス 森元 憲介 (株式会社東京証券取引所) 斎藤 史貴 (株式会社東京証券取引所)
後援 株式会社日本取引所グループ(JPX) 株式会社東京証券取引所 経済産業省	ディレクター 柴田 花菜 (公益社団法人ジャパンチャレンジャープロジェクト) 樽本 理子 (公益社団法人ジャパンチャレンジャープロジェクト) 東田 一起 (公益社団法人ジャパンチャレンジャープロジェクト) 越智 総一郎 (公益社団法人ジャパンチャレンジャープロジェクト)	
プロデューサー 中川 直洋 (公益社団法人ジャパンチャレンジャープロジェクト)		

公益社団法人ジャパンチャレンジャープロジェクト

〒248-0012 神奈川県鎌倉市御成町5番42号
https://japan-challenger-project.com
JAPAN CHALLENGER GATEは、多くの協賛・協力企業・団体に支えられています。

参加校 秋田県立秋田南高等学校 富山県立新湊高等学校 埼玉県立小川高等学校 京都府立丹後緑風高等学校 三重県立鳥羽高等学校	スーパーアドバイザー 藤野 英人 氏 レオス・キャピタルワークス株式会社 代表取締役社長 村口 和孝 氏 有限責任組合日本テクノロジーベンチャーパートナーズ 代表 石井 芳明 氏 独立行政法人中小企業基盤整備機構 創業・ベンチャー支援部長	菊地 晶子 氏 株式会社東京証券取引所 金融リテラシーサポート部長 筒井 康仁 氏 株式会社創建 代表取締役 守時 健 氏 株式会社バンクチュアル 代表取締役
---	--	---

日時 2025年3月27日(木) 15:15~17:30	会場 東証Arrows プレゼンテーションステージ 東京証券取引所 東京都中央区日本橋兜町2-1
特別協賛 倉 律 FUJICUTUAL Inc.	後援 JPX JPX 経済産業省
協賛 I-SITE あさ出版 西井 浩一 Grass Family. 木野村英明法律事務所 株式会社大和システムクリエート SUPPORT ONE	協賛 淑徳大学 株式会社ビーストラベルプロジェクト Playable MORINAGA RAYMAY

JAPAN CHALLENGER GATE

起業体験プログラムを通じて学ぶ、資本主義のダイナミズム!

GOAL

目的

起業体験プログラムを通じて、一人でも多くの起業家を育て、地域の魅力向上と課題解決に向けてこれからの日本を担う高校生が事業モデルを提案。事業アイデアのブラッシュアップを通じて付加価値をつくり出し、さらに高校生がビジネスの発表を行い、産官学

OUTLINE

概要

高校生が起業体験プログラムを通じて得た経験や学びについて、全国各地から選定された5校が資本市場の拠点ともいべき東京証券取引所で、実施した内容をもとに、プレゼンテーションの内容を発表をしました。

アドバイスは、公益社団法人ジャパンチャレンジャープロジェクトの理

ABOUT

起業体験プログラムとは

「文化祭」という生徒たちのやる気スイッチが入る楽しいイベントを通じて、起業体験プログラムを行ないます。クラスごとに学校から予算が決められ、資本家(投資家)から資金を調達し、付加価値(=商品やサービス/価格)の高い商品を販売します。それにより自然と資本主義経済と社会主義経済の違いを学ぶことができます。単に商品を作ることが目的ではなく、地元の事業者と商談を重ね、高付加価値のある商品を生み出し、さらに、その商品には適切な価格を付けることが求められます。価格

連携を図りながら、起業マインドを浸透させる。起業体験プログラムの活動を応援したいプロの投資家や金融機関、民間事業者等が直接対話する「未来人材応援プロジェクト」を展開します。

事や産官学の方々から質問等を行い、適切なアドバイスを行いました。東証で開催(後援)することで、今後のスタートアップのすそ野拡大、そして、「投資家目線とは何か」という視点からの金融リテラシー向上を図るものとし、聴衆は当団体の関係者(起業体験プログラムの関心のある)が参加しました。

設定は最終的な利益を見込み、株主還元も考慮した収益モデルを生徒たちが考えます。そして収支を出して決算書を作り、株主総会を開催します。一連の資本主義経済を学ことができます。また会社組織を作ること、自分の得意分野の職業体験もできます。以上、公益社団法人ジャパンチャレンジャープロジェクトが公益事業として、起業後進国と言われた我が国が、若者を中心とした起業機運を高めていきたいと考えております。

GREETINGS

ごあいさつ

みなさん、こんにちは!
今日は全国から集まった高校生のみなさんが、ここ「起業家の夢の場所」東京証券取引所で発表するという、とても特別な日です。つい先日、僕が応援しているハンディキャップのある起業家が、この場所で見事に上場を果たしました。ここでは、頑張って努力して、しっかり結果を出した人だけが「鐘」を鳴らすことができます。そんなすごい人たちのパワーが詰まったこの場所で、今日はみなさんにもそのエネルギーをたくさん浴びながら、自分らしく楽しんで、そして思いっきりチャレンジしてほしいと思います。今日は、思い切りやっちゃってください!応援しています!



藤野 英人

レオス・キャピタルワークス株式会社
代表取締役社長

本日は、このような素晴らしいイベントにお招きいただき、誠にありがとうございます。私は国会から駆けつけてまいりました。「株式会社は1円です」。この制度を立ち上げたメンバーの一人として、これまで約20年にわたり、政治や行政の立場からスタートアップや起業を支援することに取り組んでまいりました。本日この場において、皆さんが新たな挑戦を始めようとしていること自体が、すでに大きな一歩であり、かけがえのない経験となるはず。どうか自身の思いを信じ、楽しむ気持ちを忘れず、全力で取り組んでいただきたいと思います。心より応援しております。



鈴木 英敬

衆議院議員
元・内閣府大臣政務官 前・三重県知事

CHALLENGER 1

チャレンジャー

秋田県立秋田南高等学校

発表者 千葉 萌 さん
浅野 あかね さん
随行者 奥 真由美 さん

社名に込められたいちごいちえで理念もはっきり。販売したのはいちごのマフィン。学びも多く、やりがいや達成感、個人個人が、将来について考えることができたこと。

【奥真由美先生から】東京証券取引所を会場に全国から集まった高校生と発表するという機会を頂き、貴重な学びと刺激を頂きました。これからの進む方向に確実に生きてくる時間でした。ありがとうございました。



SUPER ADVISORS

スーパーアドバイザーのご紹介

- 藤野 英人 氏
レオス・キャピタルワークス株式会社
代表取締役社長
- 村口 和孝 氏
有責任総合日本テクノロジーベンチャーパートナーズ
代表
- 石井 芳明 氏
独立行政法人中小企業基盤整備機構
創業・ベンチャー支援部長
- 菊地 晶子 氏
株式会社東京証券取引所
金融リテラシーサポート部長
- 筒井 康仁 氏
株式会社創建
代表取締役
- 守時 健 氏
株式会社バンクチュアル
代表取締役

株式会社 いちごいちえ

3月27日 社長 千葉 萌 常業 加藤 結衣
広報 浅野 あかね 製造 山崎 美心
会計 伊藤 ももか 監査 小田 高 華
秋田南高校2年

販売した商品

いちごマフィン (黒)
いちごマフィン (白)
抹茶マフィン

450円での販売

売上		活動を通して	
科目	金額	株主	出資金額 分配金額 (合計)
売上高	112,700円	社員	1,000円 7,200円
売上原価	45,551円	若木 里也子様	40,000円 64,800円
売上総利益	67,149円		
販売費および一般管理費	5,060円	1株あたりの利益配当金額	621円
税引き後利益	62,101円		

・企業理念を貫き通せたのは良かった
・やりがいや達成感
・個人個人が、将来について考えることができた

学業との両立に追われながら提出期限を守らないといけない環境であり、より責任感が感じられるようになった。

CHALLENGER 2

チャレンジャー

富山県立新湊高等学校

発表者 小金澤 芹羽 さん
水上 瀬莉奈 さん

担当 大井 裕介 先生

とやまワカモノサミットでは県下の10校が出店。富山駅での実践販売。富山県の食材とお祭り好きが集まった新湊高校。かりんとう饅頭、涼しん棒などクオリティの高いメニュー販売で完売。

【大井裕介先生から】初めは起業体験という慣れない領域に気後れていましたが、丁寧に指導いただき、生徒が主体的にマーケティング戦略から、商品の仕入れから販売、株主報告までしっかりとできた姿を見て生徒を誘って良かったと感じました。



概要

01 経営理念
富山県産食材の活用による、地元産品の魅力を伝える。富山県産食材の活用による、地元産品の魅力を伝える。

02 事業業績
10校中唯一の完売。10校中唯一の完売。

03 学んだこと
マーケティング戦略の重要性を学ぶ。マーケティング戦略の重要性を学ぶ。



CHALLENGER 4

チャレンジャー

京都府立丹後緑風高等学校

発表者 安田 楓 さん
井元 心唄 さん

担当 斎藤 進吾 先生

京丹后市主催の丹後万博企画で実践販売。地元名産のばら寿司を食べやすいように「ばら巻き寿司」として提案。売上、利益も大幅に計上することができました。京丹后市愛溢れるプレゼンでした。

【斎藤進吾先生から】起業体験プログラムを通して、ビジネスの実践的な流れを学ぶことができました。またチームでの課題解決や発表を通して、本学科のミッションである起業家精神を育むことができたと感じました。自分自身の枠を超えて挑戦し、新たな価値を創造しながら企業と連携した経験を得て、自信を深めることができました。

2025年3月27日
京丹後市を伝えたい
京都府立丹後緑風高等学校企画運営
2年 井元 心唄 安田 楓

承 今年度の開発商品
ばら巻き寿司
〈協力企業〉 刻のや 様
〈目的、ねらい〉 丹後地域の郷土料理「ばら寿司」と「巻きずし」を掛け合わせ、丹後の魅力をばらまきたい

転 全体の売り上げ
売り上げ目標達成！完売！
総売上高 ¥416,000
売上総利益 ¥196,500

結 展望
目指せ！消滅可能都市からの脱却！
京丹後市は地域愛の町！
食を通して人と人がつながり、シビックプライドを醸成させる。



CHALLENGER 3

チャレンジャー

埼玉県立小川高等学校

発表者 木坂 颯佑 さん
藤田 悠陽 さん

担当 平岡 星児 先生

文化祭、川越テラス、道の駅商品開発のプログラム。小川町は有機野菜が普及しておりブランディングも学ぶことができました。

【平岡星児先生から】本気の大人と本気の対話ができること。教員とは当然ありますが、実社会で働く社会人の方々と話すことは学校現場ではなかなかありません。起業から株主総会まで、多くの本気の大人と触れ合い、対話しながら学べたことは生徒たちの大きな財産になりました。実社会で自分が活躍する未来も生徒たちは想像、実感できたように思います。最後になりますが、このような機会を与えてくださいました公益社団法人ジャパンチャレンジャープロジェクト代表理事中川直洋様はじめ、ご協力いただきました皆様にこの場を借りて、心より御礼申し上げます。



起業体験プログラム発表会
埼玉県立小川高校 飯島愛花 木坂颯佑

実施内容

7つの会社を設立 → 株主各位にプレゼン

出資金から各社フラッシュアップ → 文化祭・コドテラス実践販売

販売について

4人で10時から15時まで販売
ピラ配りポスターで広告

実施結果

全体経費 387,562円
売上 420,600円
利益 33,038円

※7社合計

CHALLENGER 5

チャレンジャー

三重県立鳥羽高等学校

発表者 加藤 琉雅 さん
野中 陽斗 さん

担当 真弓 覚仁 先生

起業体験プログラムを取り入れて3年目。観光都市鳥羽の企業とのコラボ企画。実践販売は地元の商業施設。毎年恒例になり全社完売する勢い。1年生の実践に2年生が自然と手伝えるなどプログラムが充実。

【真弓覚仁先生から】東京証券取引所で日本の経済を支える方々の前で発表することは、かけがえのない経験でした。それだけでなく、成長するために必要な「出会い」にもなりました。会場で出会った高校生と今でも交流があるようです。起業をきっかけに日本を支えていく若者たちが「出会う」場として、続いていくことを願っています。

とばっ子カンパニー
~起業体験プログラム~
三重県立鳥羽高等学校

完成した白玉パフェ
協力してくださった企業 : Ciao様
梅ゼリーを一番下、混ぜて食べても、そのまま食べても美味しい
=新感覚の味

宣伝~決算まで生徒主体
10月7日(土) 10:00~15:00
「とばっ子市場」開催
鳥羽ショッピングプラザハル
来場者600人
売上5.0万超

学んだこと

- 笑顔でお客様に接する
- 失敗を恐れずに挑戦する
- 取引をする難しさ
- 商品のコンセプト・売りたい人を明確に



PANEL DISCUSSION

パネルディスカッション

まずはやってみましょう、どんなことでもいいから。

実践すると必ず学びがあります。

だからどんどん挑戦してほしいなと思います。



平野 皆さんに自己紹介を兼ねて今のお仕事と、それから今日は高校生たちがたくさんいますので、仕事に就こうと思ったきっかけがあればお話しいただければと思います。

村口 徳島県の田舎生まれで、中学校の時は水泳の選手で県で入賞まではしたけれど、それ以降記録が伸びなくてやめました。2年浪人をして慈恵大の奨学金をもらいながら、シェイクスピアをプロでやると思って頑張ったんですが、食っていけるわけがないと説得されてやめて、投資家になりました。水泳やシェイクスピアで一生懸命努力したことが次のヒントになったし、良いことにも繋がりました。ぜひ若い時に、人からなんとと言われるのが挑戦し、努力してほしいと思っています。



村口 和孝

石井 岡山県の商店街で生まれ育ちました。商売をしていた家の息子です。お客様に「ありがとう」と感謝されるのが嬉しかった。商売をやりたいと思っていたけど、商店街がシャッター通りに。高校生になる頃には全然お客様が通らなくなった。繊維産業が海外へ移り、働く人がいなくなった影響もありました。それを見ていて、商売以外に応援できることがないかなと思ったんです。商売人以外を応援する仕事をしていたので、入省を決めました。途中で留学が必要に



なり、カリフォルニア大学へ。中小企業の応援と、スタートアップの支援をして今に至ります。

藤野 私は富山県富山市東町に生まれました。富山が故郷です。地域創生の仕事にも関わっていますが、メインは投資です。最近フジテレビの大株主になったということで、新聞やテレビにも取り上げられました。今日もフジテレビの経営陣が大幅に入れ替わり、40年間いた方が退任するという発表がありました。一番やりたいのは、起業を応援し、起業家を増やすことです。中川さんが長く働いていた会社を辞めて、若者を応援する方に特化すると言って、一緒に「ジャパンチャレンジャープロジェクト」を立ち上げました。



藤野 英人

守時 岡山県倉敷市出身です。高校は倉敷商業高校で、2回ほど停学になったこともあります。田舎暮らしをしようと思って市役所に入りました。当時は人より2年くらい遅れていたの、物理的に人の3倍くらい働こうと決意しました。市役所の職員なのに、年間10日くらいしか休みがありませんでした。ふるさと納税やゆるキャラの取り組みで、日本一になったこともあります。そんな中、市長から「市役所辞めたら？」と言われて、正直嫌々ながら起業しました。スーパー公務員ともてはやされ、生き残ってるのが少なくて、まあキラキラしてなくても起業できるんだなと思いました。売り上げは年々倍増していますが、売り上げを追うよりも、田舎から東京に人を流すという「地域の循環」をメインにした仕事をしています。

平野 地域に入り込んで一緒にやっているということなんですね。ジャパンチャレンジャープロジェクトも地元の学生を応援する形ですが、この起業体験プロジェクトも村口さんの発案とのこと。どんな背景があったのでしょうか？

村口 1999年から起業体験プログラムをやっているの、もう四半世紀になります。共通しているのは、経済を回している

のは政府ではなく、地球上に住む人たちがお互いに喜び合って生活し、「これたくさん採れたから買ってね」と言い合うことで経済が成り立ってきたということです。大学時代にシェイクスピアの演劇をしていたこともあり、それを実感していました。

私の地元は田舎で、1年を通じて話す相手もほとんどいないような環境でしたが、東京に来て一生分しゃべったような感覚があります。人と人が経済を回すことで、東京証券取引所の株価も上がっていく。役所がやっているのは、陳情と補助金をもらうための仕事であって、経済活動ではありません。

本当は、頭のいい人が経済活動できる場をつくるべきで、各都道府県が陳情活動をする優秀な組織ではなく、民間が「何が必要で、いくらで、どう売るか」を考えて政策提案できるようにしなければと思い、起業体験プログラムを始めました。

ふるさと納税もそうです。投資先のDeNAが成功し、東京に納めるよりも田舎に8,000万円の住民税を納めたら喜んでもらえると思いました。でも実際は「今まで赤字だったから地方交付税をもらっていたのに、黒字になって困った」と言われた。地方出身者でも税金の管理ができれば、社会全体が潤うと信じています。

守時 おっしゃる通り、私は元市役所職員ですが、お金をどうやって取ってくるかも大事。でも子ども1人育てるのに2,000万円かかる時代。ふるさと納税で少しでも取り返せれば、ほんのわずかも前進です。



守時 健

平野 世界と戦える地域をつくるというのが皆さんのビジョンなんですね。藤野さん、「ヤンキーの虎」という考え方についてはどう思われますか？

藤野 地域には頑張っている人がいますが、過小評価されています。かつて地方で伸びた3つの産業があります。ひとつは携帯。ショップが新たにでき、既得権益とは関係なくビジネスが展開されました。ふたつ目は介護。法整備が進み、補助金や国の支援もあり、介護施設が大きな雇用の場になりました。三つ目はコンビニ。今では全国どこにもありますが、20年前は都市部に限られていました。これらの分野で成功したのは、地方のフランチャイジーたち。例えばパチンコや時計屋の息子たちが地元経済を支えました。でも今、この3つの成長セクターは停滞しています。

新たな成長分野が生まれていない。今後は合併や別の展開で、それに代わる流れを作っていけると思っています。

石井 岸田総理が「新しい資本主義」を掲げ、それを継承した石破総理は「地方創生2.0」を打ち出しています。これから追い風は吹きますが、補助金をただ受け取るだけでは、お金の切れ目が縁の切れ目になります。補助金を受け取ったら事業を回す、産業を育てる、そういう切り替えができるかどうかが地方の勝負です。高校生と一緒に、地方でうねりを起こしていけたらと思っています。



石井 芳明

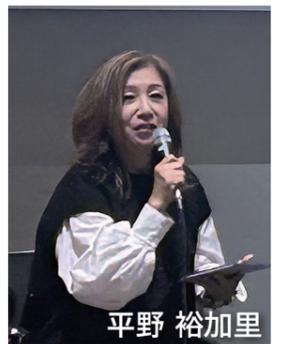
村口 今、地方にこそチャンスが来ています。特に若い人たちに。生成AIをうまく使えば、田舎でも世界とつながれる。昔、百科事典があれば情報にアクセスできたように、今はAIで世界中の情報が手に入る時代。ずる賢くではなく、人のために使うことが大切です。AIに「50項目、良い面も悪い面も教えて」と言えば、議論の出発点になります。田舎にしながら世界と戦える。今年は、田舎からすごい会社が生まれる年になると信じています。

守時 スマホと同じで、若い人の方が新しい技術に強い。生成AIも、若い頃から触れていれば我々よりもずっと使いこなせるはず。どんどん挑戦してほしいです。

平野 まさに「地域」と「若者」が今のキーワードということですね。
藤野 若い人のレベルはどんどん上がっています。全国のスタートアップのアワードに行きますが、毎年劇的にレベルが上がっていて、地方も例外ではありません。実際、村口さんの言うようなことは、言われなくても実践している高校生がたくさんいます。ChatGPTに聞いたり、活用している人も多い。地域と東京の格差は、もはや関係ないです。

大事なのは、「まずやってみる」こと。やると、いろんなことが見えてくる。知りたいことも増える。だからやってみてください。挑戦することが財産です。失敗してもいい。学べばいい。「勝つか負けるか」ではなく、「勝つか、学ぶか」。めちゃくちゃ勝つか、めちゃくちゃ学ぶかです。

平野 以上でパネルディスカッションは終了とさせていただきます。ありがとうございました。



平野 裕加里